

此処も彼岸も越えて巡り合う

MATI DIOP

ATLANTIQUE
BIG IN VIETNAM
MILLE SOLEILS
TOUKI BOUKI
35 RHUMS
J'AI PAS SOMMEIL

マティ・ディオップ特集

越境する夢

長編監督デビュー作『アトランティック』が2019年カンヌ国際映画祭グランプリを受賞。
世界が熱い視線を送る気鋭の女性監督マティ・ディオップ、待望の特集上映！

【映品】『アトランティック』『ビッグ・イン・ベトナム』『千の太陽』『トゥキ・ブキ／ハイエナの旅』『35杯のラムショット』『パリ、18区、夜』

2022年4月23日[土] >>> 5月6日[金] 連日 21:00~

Theatre Image Forum シアター・イメージフォーラム [東京・渋谷]

主催：アンスティチュ・フランセ日本／シアター・イメージフォーラム

MATI DIOP

マティ・ディオップ特集

2022年4月23日[土] 》》》 5月6日[金] 連日21:00~

シアター・イメージフォーラム

Tel: 03-5766-0114 / www.imageforum.co.jp

渋谷駅より8分 宮坂坂を上り青山通り表参道方面一ツ目の信号右手入る

料金 一般 1500円 / 学生・シニア・会員 1200円

※リビエラ割引窓口にてチケット提示で当日一般料金を300円引き

越境する夢

主催 II アンスティチュ・フランセ日本 / シアター・イメージフォーラム

国立映画アーカイブでの特集上映『フランス映画を作った女性監督たち——放浪と抵抗の軌跡』につづく本特集では、初長編作品『アトランティック』が2019年カンヌ国際映画祭でコンペティション部門グランプリを受賞した気鋭の女性監督、マティ・ディオップにフォーカスします。

よりよい世界を夢見て海を渡るもの、留まりその地の過去と未来を紡ぐもの、流れ着いた先で故郷を想うもの——フランスとセネガル二つの土地にルーツを持つマティ・ディオップは、現実社会を捉える確かな観察眼と豊かなイマジネーションによって、さまざまに『越境』する人びとの姿をスクリーンに映し出します。今回が劇場初公開となる『アトランティック』に加え、貴重な初期短編作品や女優としての出演作など、彼女の魅力に多面から迫るラインナップをぜひ劇場の空間でご堪能ください。



『アトランティック』 Schedule A

フランス・セネガル / 106分 / 2019年 / カラー / デジタル

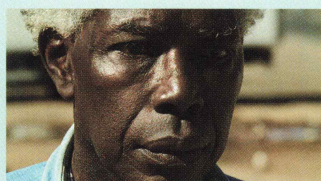
都市開発が進むセネガルの首都ダカール。高層ビルの建設現場で働く青年スレイマンと恋仲にある17歳の少女アイダは、別の裕福な婚約者との結婚を控えていた。給料の未払いが続く職場に耐えかねたスレイマンと仲間の男たちは、よりよい暮らしを夢見てスペインへと航海に出る。女たちが残された空虚な港町へ、ある日彼らは思いもよらない姿で帰還する——。現代セネガル社会の暗部を映しながら意表を突くストーリーと幻想的なビジュアルイメージで唯一無二の世界観を打ち出した、マティ・ディオップ初長編作品。2019年カンヌ国際映画祭コンペティション部門グランプリ受賞。



『ビッグ・イン・ベトナム』 Schedule B

フランス / 28分 / 2012年 / カラー / デジタル

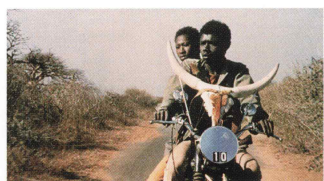
マルセイユ周辺の森林でフランス系ベトナム人の監督アンリエットは息子のマイクに手伝ってもらいながらビエール・ショデルロ・ド・ラクロ原作『危険な関係』を撮影していた。しかし主演俳優が行方不明になり撮影は中断。アンリエットは彼を探し出すため息子とクルーに現場を任せ、一人町を彷徨う。その途中ベトナムからフランスにやってきた男と出会い、彼は忘れたい故郷への思いをアンリエットに語り始めるのだった。イメージフォーラム・フェスティバル2012で上映。2012年ロッテルダム映画祭短編部門グランプリ受賞作。



『千の太陽』 Schedule C

フランス / 45分 / 2013年 / カラー / デジタル

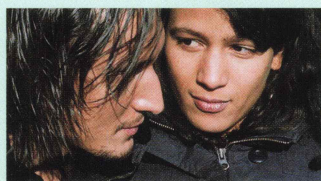
マティ・ディオップの叔父であるセネガル映画の巨匠、ジブリル・ジヨップ・マンベティ監督による『トゥキ・ブキ・ハイエナの旅』(1973)の足跡を辿った短編作品。公開から40年の時が経った『トゥキ・ブキ』の舞台ダカールで、マティ・ディオップはその主演俳優マガイエ・ニアンの現在の姿を追う。今では年老いた牛飼いとなった彼は、かつて自身が演じた青年と同じく祖国セネガルを離れられずにいた。亡き伯父の映画の世界とマティ・ディオップの眼差しとが、虚実の境を越えて絡み合う傑作。2013年マルセイユ・ドキュメンタリー国際映画祭グランプリ受賞。



『トゥキ・ブキ / ハイエナの旅』 Schedule D

監督: ジブリル・ジヨップ・マンベティ / セネガル / 95分 / 1973年 / カラー / デジタル

マティ・ディオップの叔父、ジブリル・ジヨップ・マンベティ監督の長編処女作で、新しいアフリカ映画の誕生を全世界に知らせ、アフリカの『ヌーヴェルヴァーグ』と評される作品。若い恋人たち、モリとアンタは、喧騒と貧民窟から逃げ出し、パリで富を手に入れることを夢見て、牛の角をつけたバイクに乗り旅立つ。道中、金欲しさにギャングや盗み、売春を働き、ダカールでは手に汗を握る追跡劇が繰り広げられる。モリとアンタのキャップは『俺たちに明日はない』や『気狂いビロロ』などのアウトロー・キャップのアフリカ版のようである。冒険の食肉解体処理所の映像などは、ネオリアリズムを思わせながら、主人公達の白昼夢をもとにファンタジックな世界が広がる。



『35杯のラムショット』 Schedule E

監督: クレール・ドゥニ / フランス / 100分 / 2009年 / カラー / デジタル

地下鉄の運転手リオネルは、娘のジョゼフィーヌと二人でパリ郊外に暮らしている。リオネルには近所に住むガブリエルという恋人がおり、一方ジョゼフィーヌにも心惹かれる男、ノエがいた。やがて父リオネルは愛する娘との別れが遠くないことを感じ始める。マティ・ディオップは本作で娘のジョゼフィーヌを演じ女優デビュー。クレール・ドゥニ作品の常連俳優アレックス・デスカスと共に主演を務め、リュミエール主演女優賞にノミネートされるなど高い評価を得た。小津安二郎へのオマージュが込められた作品で、父と娘の関係を詩情豊かに描いた秀作。ヴェネチア国際